平成12年４月発行

国際交流

ふれあいのひろば

第15号

11月10日～18日　岡山市・サンホセ市姉妹都市締結30周年記念『岡山市民親善訪問団』派遣
岡山市が寄贈した桃太郎ブロンズ像の前で固い握手を交わす萩原誠司岡山市長とジョニー・アラヤ・モンヘ　サンホセ市長

21世紀に向け新たな交流の輪を

会長　小坂淳夫

会員の皆様方におかれましては、平素から本協議会の活動に対しまして、格別のご理解とご協力をいただき、厚くお礼を申し上げます。

昨年は、姉妹都市締結30周年を迎えましたサンホセ市へ、岡山市から市民親善訪問団を派遣し、友好を深めて参りました。サンホセ市では、予てより建設が計画されております「岡山公園」の起工式を中心とした様々な記念行事が展開され、両市の絆を一層深めることができたものと考えております。

さて、本年度から韓国の富川市との交流が本格的に始まり、今年４月には富川市長一行が来岡され、今後の両市の交流について協議が行われました。また、技術研修生の相互派遣や中学生の派遣等を計画しております。

本協議会の交流の輪も、これから迎える21世紀に向け、姉妹・友好都市を中心として多くの都市へと広げ、更なる活性化に取り組んで参りたいと考えております。

今後とも、国際交流事業の積極的な推進について、会員の皆様のより一層のご支援とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

岡山市・サンホセ市姉妹都市締結30周年記念
『岡山市民親善訪問団』派遣

岡山市とサンホセ市の姉妹都市締結30周年（昭和44年1月27日締結）を記念して、昨年11月10日から11月18日まで、萩原誠司岡山市長を団長とする「岡山市民親善訪問団」一行95名をサンホセ市へ派遣しました。

一行は、11月11日から11月16日までの6日間サンホセ市に滞在し、歓迎式典、岡山市が寄贈した桃太郎ブロンズ像の除幕式、岡山公園の起工式並びに記念プレートの除幕式、平和に関する講演会等の各種記念行事に参加し、交流を深めました。また、岡山公園の起工式では、同公園建設のための岡山市民の皆様からの寄付金約５万ドルの目録贈呈が行われました。

サンホセ訪問を終えて

岡山市・サンホセ市姉妹都市締結30周年記念事業実行委員会
委員長　谷　義仁

1999年11月10日、岡山市・サンホセ市姉妹都市締結30周年記念事業岡山市民親善訪問団（長い名前ですなあ）95名が乗ったアメリカン航空158便が、関西空港をアメリカのダラスに向かって飛び発ちました。

コスタリカ・サンホセ市にとって、100人近い日本人が訪問することはかつて無かったことだろうと思います。当初50人の計画がいつの間にか100人となり、最終的には前記の数字となったのですが、旅の世話をされた方は大変だったと思います。加えて、コスタリカを飛び越してパナマへ不法入国というハプニングもあった訳ですから。でも、一行の大方の方は「パナマまでただで行けた」と思っていらっしゃったのではないでしょうか。

萩原市長を団長とする公式訪問ですから、いきおいいろいろな公式行事があって、観光が目的だった方には、多少ご不満があったかも知れません。

しかし、日本から40時間（パナマ往復の時間も入れて）もかけて、中央アメリカの常夏の国まで出かけ、懸案であった岡山公園の起工式に参加し、サンホセ市庁舎の庭で桃太郎像の除幕を祝って、岡山・サンホセ市の友好関係に確かな足跡を残したことは、訪問団参加者全員の方にとって、記念すべき人生の一頁ではなかったかと思います。

さらに、サンホセ市主催の歓迎夕食会に応えての岡山市側による晩餐会の盛り上がりようは、特筆すべきことであったと思いますし、サンホセ市の方々に岡山の力を強く印象づけたのではないでしょうか。

公式行事の後の熱帯雨林の中での稲妻と土砂降りの雷雨の洗礼、どこまでも続くコーヒー畑の中を往き来したハコなどへの旅も、それぞれの方にそれぞれの印象を土産にされたのではないかと察します。

帰路、ちょっとだけですが立ち寄ったケネディ元大統領暗殺現場の、何もなかったような静けさも私にとっては印象的でした。

ダラスを発ったＡＡ157 便が、一路日本へ向けて水平飛行に移り、飛行高度を10,688m、航行速度を835㎞/hに固定したまま日本の空に入り、白く冠雪した富士山を眼下に見て、関西空港にそれこそ参加者全員が事故なく着地でき、岡山まで無事に帰れた事は何よりの喜びでした。

最後になりましたが、この訪問にあたり、ジョニー・アラヤ・モンヘ　サンホセ市長、リカルド・セケイラ駐日コスタリカ大使、杉内在コスタリカ日本大使ほか、関係者の皆様方に大変お世話になりました。心からお礼を申し上げます。

皆様、本当にありがとうございました。

◀出発式

快晴の中、林原駐車場にて山田勇岡山市議会副議長から激励挨拶をいただき、団員のご家族等多くの関係者に見送られ、団員一同、期待に胸を膨らませ元気に出発した。

▲　歓迎式典　▲

サンホセ市役所フィゲレスホールにて行われた歓迎式典では、岡山・サンホセ両市長等から締結30周年を祝うメッセージが述べられ、その後記念品としてサンホセ市から萩原市長に特別訪問者への盾、友情の鍵、サンホセ市の著名な画家の描いた絵が贈られた。また式典の締め括りには、コスタリカの伝統的民族舞踊が披露された。

▲桃太郎像除幕式

サンホセ市役所前の広場で、平成9年12月に岡山市が寄贈した桃太郎ブロンズ像の除幕式が行われた。岡山公園の完成後、この桃太郎像は同公園内に移される予定。

岡山公園起工式▶

岡山市との友好の証としてサンホセ市中心部からやや離れたサンフランシスコ地区に建設の、「岡山公園」起工式では、萩原市長から同公園建設資金の一助として岡山市民からの寄付金の目録を贈呈された。また、公園予定地には岡山から持参した土が埋められ、両市長により岡山公園の記念プレートを除幕して着工を祝った。

▲サンホセ市長表敬訪問

ジョニー・アラヤ・モンヘ市長を表敬訪問し、両市の現状や今後の都市計画についての協議が行われた。両市の共通課題は、交通整備とゴミの減量。また、市民の憩いの場である公園の整備についても積極的に推進していこうとする両市長の前向きな意見交換が行われた。

▲プエブロ・アンティグオ見学

“古い村”を意味するコスタリカの昔ながらの町をイメージして作ったミニチュアの町の野外レストランで、コスタリカの民族楽器で演奏される「さくら」の歌などを聞きながら、コスタリカ風ランチを堪能した。

▲平和に関する講演会

「平和のためのアリアス財団」（アリアス元大統領はノーベル平和賞受賞者）事務局長フェルナンド・ドゥラン氏を講師に迎え、「中米の和平の推移とアリアス財団の業績」と題するコスタリカの歴史や現在抱えている女性問題等についての講演会が開催された。
（写真は萩原市長とドゥラン氏）

◀答礼夕食会

サンホセ市から受けた厚い歓迎への答礼として、岡山市民主催の夕食会が開催された。谷副団長の音頭で乾杯をした後は早速出席者の間で写真の撮影、名前や住所の交換が始まった。また、団員による民謡の披露、「上を向いて歩こう」の大合唱、両市民が一つの輪になって踊った岡山の踊りなど、岡山・サンホセ両市民の心が一つになった会だった。

ブラウリオ・カリージョ国立公園観察▶

サンホセから北へ約１時間の国立公園へエコツアーにでかけた訪問団は、目玉であるアエリアルトラムと呼ばれるゴンドラに乗って熱帯雨林のジャングル巡りをした。

萩原市長 サンノゼ訪問

昨年11月、萩原市長は岡山市とコスタリカ共和国サンホセ市との姉妹都市締結30周年を記念して、岡山市民親善訪問団とサンホセ市を訪問した帰路に、訪問団と分かれサンノゼ市を訪問しました。

市長は、サンノゼ市新市長のロナルド・ゴンザレス氏を表敬訪問し、市政の課題について意見交換を行いました（写真左）。また、岡山後楽館高等学校と教育交流を行っているシルバー・クリーク・ハイスクールを訪問し、日本語教室の生徒達と交流しました（写真右）。

サンノゼ・パシフィック・ネイバース

岡山コミティ理事 来岡

昨年11月22日から27日まで、サンノゼ・パシフィック・ネイバーズ岡山コミティ理事の三浦和子氏が来岡されました。

三浦氏は、今年３月24日から30日までサンノゼ市を訪問した岡山市ジュニアオーケストラの受入れについて、関係者と打ち合わせを行いました。

（写真は萩原市長を表敬訪問した時のもの。左側が三浦氏。）

第5回サンホセ市技術研修生帰国

サンホセ市からの技術研修生エリアシブ・ファハルド・ヴァンデル・ラート氏が、半年間の研修を終え、昨年6月29日に帰国されました。同氏は平成11年1月に来岡し、岡山大学医学部産科婦人科学教室で超音波について研修を受けました。

私の岡山訪問記（平成11年1月7日～6月29日）

エリアシブ・ファハルド・ヴァンデル・ラート

岡山市とコスタリカのサンホセ市とが姉妹都市関係にあることが縁で、私は６か月間岡山に滞在する機会に恵まれました。今回の目的は文化交流の一端を担うとともに、岡山大学での医療分野の研究に励むことでした。とりわけ超音波を専門に産科婦人科、放射線科、泌尿器科で研修を受けてきました。ここで関係者の皆様、とくに医師の先生方は私に大変よくしてくださり、専門知識の伝授はもとより、よき友人としてあらゆる支援を注いでくださいました。

また４月には、東京で開催された全国放射線会議に出席したり、京都大学で実施された生体肝移植に立ち会うなどして、日本の医療技術の高さに思わず目を見張りました。

日本の伝統芸能を目にし、岡山の町の美しさを味わうことのできた日本での文化体験もまた貴重なものでした。もちろん、岡山市民の皆様が愛情をもって接してくれたおかげで、岡山滞在は大変楽しいものだったということも申し上げておかねばならないでしょう。いろいろな意味（医学、文化、人を知るという意味）でこの間本当に多くのことを学んだといえます。

今度は岡山の皆様にも是非私の国へ足を運んでいただき、コスタリカ人のことも知っていただきたいと願っています。その際は、私が日本で受けたように、愛情と敬意を持って皆様をお迎えします。していいこと、してはいけないことの区別などを教えてくださった方々、そして私を支えてくださった皆様方に心よりお礼申し上げます。

最後になりましたが、外交官として私達コスタリカ人に最善を尽くしてくださったアナ・ルシア・ナサール・ソト女史に感謝の言葉を贈ります。

◀岡山大学医学部にて研修中の
ヴァンデル・ラート氏

プロブディフ市から『子供親善訪問団』来岡

平成10年度の岡山市子供海外派遣事業で、市内の中学3年生15名がプロブディフ市を訪問したことに対する答礼として、昨年8月1日から8月10日まで、プロブディフ市より13才から17才の子供親善訪問団一行15名が来日しました。
同訪問団は岡山滞在中、同年代の子供のいる家庭にホームステイをしながら、市内及び県内の視察やプロブディフ市出身のスポーツ国際交流員がサッカー指導を行っている中学校の訪問等を行いました。

▲岡山到着の日、岡山市役所にてホストファミリーとの対面式が行われた。訪問団の子供達はホストファミリー宅で6日間過ごし、日本の一般的な家庭生活を体験できた。

▲岡山市長を表敬訪問

▲岡山市議会議場を見学

▲後楽園、岡山城を視察（写真左）。岡山城で日本のかわいいお姫様に変身した（写真右）。▲

▲ホストファミリーと一緒に、足守の侍屋敷、近水園、足守プラザ等を訪問した。

▲送別会では、訪問団の代表から岡山滞在中にお世話になったホストファミリー等へのお礼の言葉が述べられた。

洛陽市政府友好訪日団　来岡

昨年７月22日から8月2日まで、劉典立洛陽市長を団長とする「洛陽市政府友好訪日団」一行7名が来日されました。
岡山市と洛陽市は隔年相互に公式訪問団の派遣を行っており、今回の訪日団は岡山滞在中、岡山市長表敬訪問の他、福祉並びに教育分野に関する施設の視察等を行いました。

▲岡山市役所3階エレベーター前で出迎えた職員から花束を受け取る劉市長。

▲萩原市長を表敬訪問。両市の今後の交流等についての協議が行われた。

▲後楽園・岡山城を参観

▲岡山東急ホテルに於いて開催された「歓迎レセプション」には、協議会会員、来岡中の洛陽市技術研修生、洛陽市へ派遣した技術研修生、岡山市関係者等約100名が出席し一行の来岡を歓迎した。

岡山商工会議所岡﨑会頭▶を表敬訪問

▲養護老人ホーム・岡山市会陽の里を訪問。施設内の視察や入所者との交流を行った。

◀半田山植物園を視察「牡丹仙女」の前で

第7回洛陽市派遣岡山市技術研修生　帰国

洛陽市で一年間の中国語研修を終え帰国された、第7回岡山市技術研修生の3名に、洛陽での生活や交流の思い出を綴っていただきました。

坂口　円

同じ黒い瞳、黒い髪、だけど伝えきれない思い－まだ上手く話せない頃抱いていた思いです。もっと話がしたい、そう思って中国語を学ぶうちに最初のもどかしさがわかりあえる喜びに変わっていきました。中国の人々との交流は言葉だけでなく、私自身にとっても得るものがたくさんありました。先生方と人生論を戦わせたり、同世代の友人達と仕事や将来に対する意見を交換し合ったりする中で私は時に励まされ、時に勇気づけられました。

今回の研修で得たことは、国家の枠を越え言葉の違いを越えた人と人との心の結びつきです。その強さ、貴さ、互いに与え合う無限の糧は私に交流という言葉の真実の意味を教えてくれました。

この前中国の友人から一通の手紙が届きました。彼女が私にくれた言葉－私達は国家や文化が違っても、同じ人間として共に“真・美・義”を追いかけていこう－これは、今私にとって、最高の宝物です。

「カシュガルの小さなモスクにて子供たちと」（左から２人目）

白髪俊恵

私にはクロアチアに住んでいる長年の文通相手がいます。友人は過去のユーゴスラビア戦争の戦火を幸いくぐりぬけて、今も元気に暮らしています。戦争中の時は友人の安否が心配で、ニュースにはとても敏感になっていました。

洛陽での留学を終え岡山に戻った今、今度は中国からのニュースも気になり始め、洛陽の恩師や友人達、さらに現地でふれあった名前も知らない人々は、今どうしているのだろうとふと思うことが多くなりました。

思うに相手について知ることは、相手を好きになることなのでしょう。自分の家族や友人ばかりでなく、遠い外国に住んでいる人々にもついて知り、そして好きになれば、決して世界に無益な戦争は起きなくなるのではないでしょうか。

故郷に戻ったこれから先は、岡山市の方々が友好都市洛陽についてもっと知ることができるように、私が現地で学んだことや体験を、できるだけ多くの機会を通して発表していこうと考えています。

「先生のお宅で国慶節を祝う」（前列左）

中藤季子

私の中の中国の人は、“人と交わるのが好きで、また親しみやすい”というイメージがあります。

例えば、電車の中で座席が近いというだけで、ほんのわずかな短い間にまるで身内のような親しい関係を作ることが出来ます。また食事の時も大勢でにぎやかに食べるのが好きです。一年間、親しみやすい性格の彼らと過ごし、沢山の心あたたまる思い出を作ることが出来ました。

以前、中国人と日本人の国民性の違いについて書かれた本を読んだことがあります。そこには、２ヶ国の性格は水と油のようなもので、全くあわないと書かれていました。しかし、この一年間中国の人との交流を通じて、国民性の違いや習慣の違いは、友好関係を作っていく上では、何の障害にもならないと思いました。言葉の違いはあるけれども、真の心と心のつながりがあれば、国境を越えて人々は仲良くなれることを実感しました。

「こんな所にも小さな交流が…」（左から２人目）
＜日本から寄贈されたバスの前で＞